

まつ ぎか ゆたか
松坂 裕

(元 千代田化工建設(株))
Senior Project Manager
(Module Yard), Yamal LNG Project)

松坂氏は 1969 年の千代田化工建設(株) (以下、千代田と略) 入社以来、一貫して建設畑を歩み、通算の現場勤務は 37 年(内国内現場 4 年)に及んだ。氏は、LNG プラント建設の黎明期から建設現場の最前線で陣頭指揮を取り、Mr. LNG の異名を取るなど正に LNG プラント建設の第一人者として活躍し、現在稼働中の全世界の LNG プラントの約 2 割の建設に携わった。



サハリンエナジー (シェル) 社向けサハリン LNG Train-1,2 プロジェクトにおいては、氏はプロポーザル作成当初から 1st LNG Train の RFSU まで一貫して本プロジェクトに参画し、特にキャンプ建設時から、Senior Construction Manager (のちに Senior Construction Director) として現地に赴任、極寒地の工事を指揮した。

本プロジェクトでは、氏の発案で、千代田の組織内に Field Support Team と呼ばれる直轄部隊を設置し、工事サブコンでは手の届かない仮設道路やエリアの整地・補修等の日常作業を強化した。氏は本 Team の編成にあたり、積極的に地元の小規模サブコンを数十社起用、彼らに対し粘り強く安全教育を施し大きく成長させ、地元経済の発展に多大な貢献をした。また、本プロジェクトでは、千代田が建設中の LNG プラントに原料ガスを送る他コントラクター所掌の上流側のプロジェクトが、大幅な納期遅延に陥った為、LNG プラントの試運転に必要な原料ガスが得られず、LNG プラントの工期遅延も懸念された。これに対して製品化された LNG を建設中の設備に受け入れ、これを気化して試運転に使用する LNG Import を世界で初めて採用する社内方針が下された。この LNG Import 採用にあたり、工事シーケンスの大幅な見直し、一部設備の改造等の全体工事工程の大幅な見直しを強いられたが、氏を中心に所員一丸となってこれに対応し、無事故で完了させた。この成功により、LNG Import が LNG プロジェクトの全体プロジェクト工期を短縮する手法として、客先を含めエンジニアリング業界でも一般的に検討されるようになった。

ヤマル LNG 社向けヤマル LNG Train-1,2,3 プロジェクトではモジュール工法が採用された。氏は、本プロジェクトで唯一千代田が担当したヤードである中国天津 Bomesc ヤードに Module Yard Senior Project Manager として赴任、JV パートナーのスタッフも併せて指揮し、全モジュールをキャリーオーバーワーク最小にして計 9 船にてプラント建設地サベッタ向けに出港させた(写真: 8 船目の出航前に所員で集合写真、中央前列に松坂氏)。2015 年 8 月には天津港の爆発事故により、作業中断・作業者の離職が発生し、そのスケジュールインパクトは 2 カ月にも及ぶと社内で計算されたが、氏が Bomesc Yard Management を叱咤激励し良好な関係を築いたため、短期間で数千人規模の追加動員を行ない、スケジュールのキャッチアップを果たした。



氏は、常に「成功はチームの手柄、失敗は自分の責任」を徹底した。そのため、部下やローカルスタッフだけでなく、JV パートナーやサブコン、顧客にも非常に慕われた。一方で、氏は気さくな性格で、誰でも気軽に相談に行ける雰囲気があり、「キャンプが停電したため緊急で発電機を手配したい」「道路が凍結して重機が立ち往生している」等々、相手側 JV の人間さえも自分の上長を差し置いてよく相談に来るほどであった。

上記の優れた功績は、エンジニアリング功労者個人賞での表彰に値する。